

20231016 アップサイクル：りんご箱キエーロコンポスト

いよいよ運動会の週となりました。心配していた気温も今月に入って急に秋めいてきて、金木犀の香りも漂い始めました。来る土曜日は、子どもたちにとって「〇年生の時には、～をやったね!」「みんなでやるって楽しい!」「本気の挑戦って楽しい!」「本当に楽しかった!」と楽しさの質がどんどん深まる思い出に残る運動会にしてまいりましょう!

さて、今回は、宮崎県都農市の「とうりーあらいぶ合同会社」の木製コンポスト「樹えりーぼっくす」を紹介しました。このコンポストが生まれるきっかけは、大量廃棄されていた製材所が出る樹皮を何とか再利用できないかということでした。このような不用品や廃物を再利用して、以前よりも付加価値の高い商品を作り出すことを「アップサイクル」といいます。これからの循環型社会を進めていく上でのキーワードになるかもしれませんね。

今回は、そのアップサイクルの取組の一つをご紹介します。長野県小布施町が進めている「りんご箱キエーロコンポスト」です。「キエーロ」は、土の中の微生物により生ごみを分解するコンポストの一種で、土と容器があれば簡単に始めることができます。生ゴミは土の中で分解され、土の量はほとんど増えることはなく、においや虫が発生しにくいいため、家のベランダでも取り組みやすいのが特徴です。夏季は5日間ほど、冬季は2週間ほどで分解されます。コンポストの使用は、環境省の「ゼロカーボンアクション 30」にも選ばれており、生ごみを燃えるゴミとして捨てないことでゴミが減量できるだけでなく、家庭のなかで環境について学べる機会にもなります。

長野県はりんごの名産地です。ところが、そのりんごを出荷する木箱が大量に廃棄されている現状が起きています。そこで、アップサイクルしてキ



エーロとして再利用したのが「りんご箱キエーロコンポスト」です。

このりんご箱を使ったキエーロは、ネットで少しずつ広がって各地で実践している方がHPで紹介していますので評判や使い方などみてみ

るのもいいと思います。

身近な生活や産業活動で出る廃棄物を「もったいない」ととらえ、「何とか活用できないかな？」と発想していくことが、豊かな生活を生み出していくということですね。今、1年生が、家にある空き箱やトイレットペーパーの芯などそのままではゴミになってしまうものを集めて「おたからコーナー」をつくっています。図工室の「材料銀行」も同じ発想ですね。家にある空き箱などを使って自由工作を楽しむ、自分で手作りゲームをつくるということは誰もが経験してきたのではないのでしょうか。自由に作る過程を楽しむ経験と「もったいない」とものを大切にしたいと感じる感性を養う学びをたっぷり子どもたちにさせてあげたいです。